

ドミニク・ドゥ ヴィリアンクール

チェリスト-作曲家

「ドミニク・ドゥ ヴィリアンクール、絹とビロードのチェロ…？」

ピエール・プチ フィガロ紙

「チェロ、魂の側」

フィリップ・ドゥ ラ クロワ、アデン ル・モンド紙

「錬金術師、歓びの導き手」(マリエル・ノーマン)ドミニク・ドゥ ヴィリアンクールは、彼のチェロ“1754年製J.ガリアノ”?? 250周年を記念するためにバッハ「組曲」を録音したいと考えた。

ジノ・フランチェスカッティのアドバイスを受け、アンドレ・ナヴァラ、フィリップ・ミュラー、マルセル・バルドン、ステスラフ・ロストローヴィッチに師事し、エルサレム、京都、ロンドン、マドリッド、モスクワ、ニューヨーク、プラハ、ローマ、ザルツブルグ、台湾、東京、ヴェニス(フェニーチェ座)、ヴィルニウス、ワシントンなどの国際舞台で数々の素晴らしいコンサートを行っている。アカデミー・レコード大賞を受賞し、ボロディン四重奏団の大家ヴァレンティン・ベルリンスキーの招聘によりモスクワ・ショスタコヴィッチ・コンクールの審査員を務めた。バクリ、ジェヴティック、フロレンツ、ランチャーノ、上林、ヴェルケンから作品を献辞され、録音もされている(ショヴォー、フォンタン、ランドウスキーティロワ…?)

サハラ、イエメン、コーカサス、中央アジア、インドなど遠い辺境の地を旅することによって一歩離れた活力を学び、トアレグ、アルメニア、チベットをテーマに作曲も行っている。「ジェリコ または砂漠の喚起」(デュラン社)、「エシュミアジーンとアララト山」(アルミアーン社、EAレコード)、「ダラムサラ、香料の山」(200人の若きチェリストによりパリ・ノートル・ダム大聖堂にて1999年世界初演)、「エジュデ、歌う砂丘 - フルートソロのための - (ジャン・フェランディスに捧ぐ)。また、世界中の砂漠をチェロを手に沈黙を求めて旅するという52分のドキュメンタリーがチャンネル「メッゾ」のために収録された。

「精神が生きるために」会の音楽監督を務め、作曲家ニコラ・バクリ、音楽評論家エレヌ・ティエポーとともにアンドル県ラ・プレ修道院に芸術家と音楽の出会いの館を開いた。2002年からはパリのアカデミー・ド・ボザールと姉妹関係にある国民功労シュバリエ賞を受勲し、パリ市立高等音楽院の教授でもある。

1994年から地中海を巡る格調高い音楽クルージング「三千年祭クルージング」を企画し、音楽界のエリートを中心に偉大な芸術家たちが一同に集まる場となっている。エウディ・メヌーイン、マルセル・ランドウスキー、バーバラ・ヘンドリック、ジョゼ・ヴァン・ダム、テレザ・ベルガンザ、マリリン・ホーン、ボロディン四重奏団などが参加している。

こうして、「密度の高い、極めて洗練された比類なきチェリスト」(ピエール・プチ、ル・フィガロ紙)によって音楽と旅が一つに結ばれ祝福される。

ウェブ・サイト：www.de-willencourt.com